

■阪神電鉄本線鳴尾駅付近連続立体交差事業（事業概要）

- 事業主体：兵庫県
- 事業区間：阪神電鉄本線
（甲子園駅～武庫川駅間）
- 事業延長：約1.9km
- 除却踏切数：6箇所（うち開かずの踏切5箇所）
- 全体事業費：約297億円
- 事業施行期間：H15年度～H30年度
- 平成27年3月 下り線高架化完了
- 平成29年3月 上り線高架化完了
- 平成31年3月 事業完了



○西開踏切、鳴尾駅西踏切等を除却することで、国道2号と阪神高速3号（武庫川ランプ）・国道43号間の道路交通が円滑化し、道路網が強化

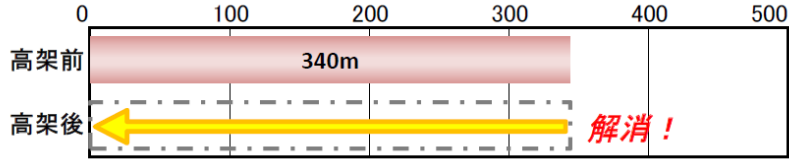


（都）小曾根線【西開踏切】

■阪神電鉄本線鳴尾駅付近連続立体交差事業（事業効果1）

①交通渋滞の解消

○小曾根線における最大渋滞長の変化 (m)



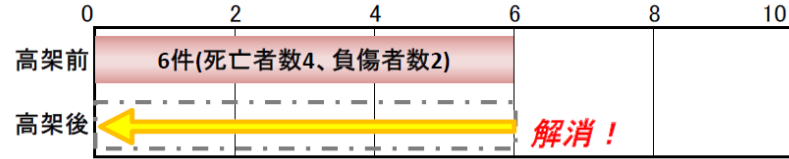
②踏切遮断の解消

○事業区間内の踏切の平均遮断時間の変化 (時間/日)



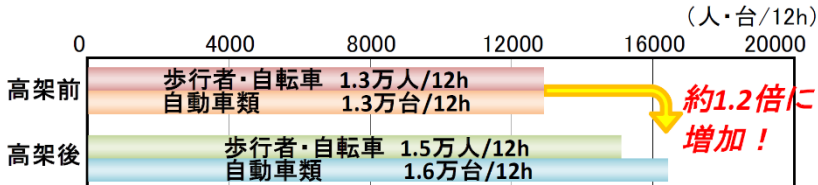
③踏切事故の解消

○事業区間内の踏切の5年間の合計事故件数の変化 (件)



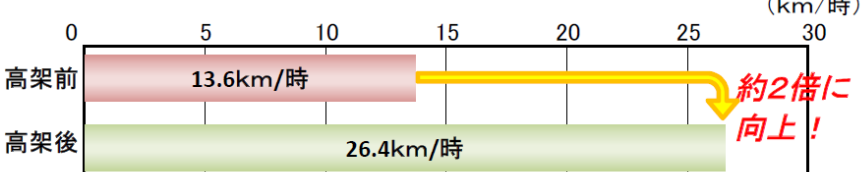
④交差部における交通需要の発現

○交差部(踏切6箇所+新設交差3箇所)における交通量の変化 (人・台/12h)

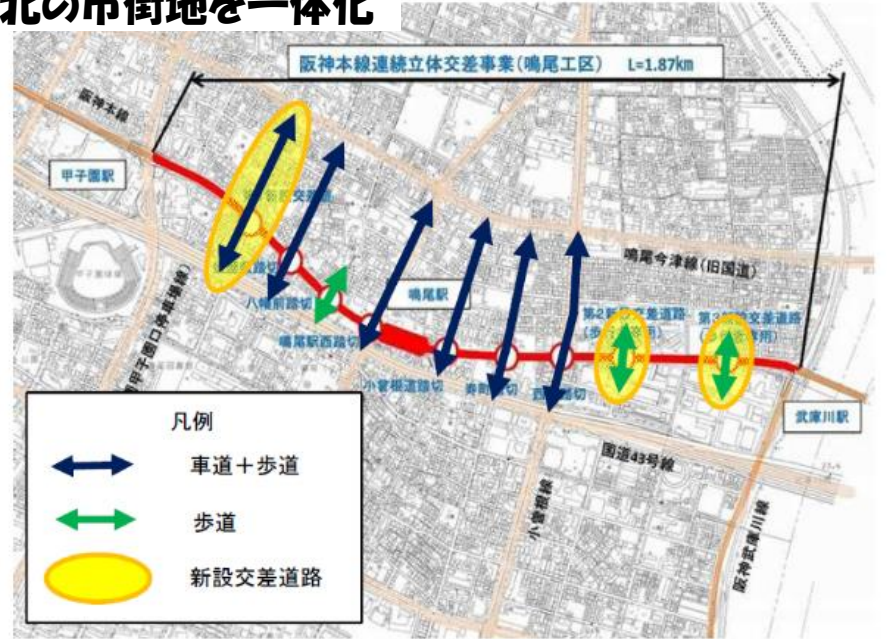


⑤自動車の平均走行速度の向上

○小曾根線における朝・夕方混雑時の平均走行速度の変化 (km/時)



⑥南北の市街地を一体化



⑦徒歩5分圏の拡大



■阪神電鉄本線鳴尾駅付近連続立体交差事業（事業効果2）

⑧地元大学と連携した「地域と共生するまちづくり」

- 近隣の武庫川女子大学の学生と協働で駅舎デザイン案を作成
- 同大学と阪神電気鉄道(株)が包括連携協定を締結し、高架下空間に“日本初”の本格的な大学施設が進出
- 地域住民や学生への学び場を提供すると共に、健康維持・増進ゾーンの整備などを通じ、多くの人々が集まる新たな活動拠点づくりの推進

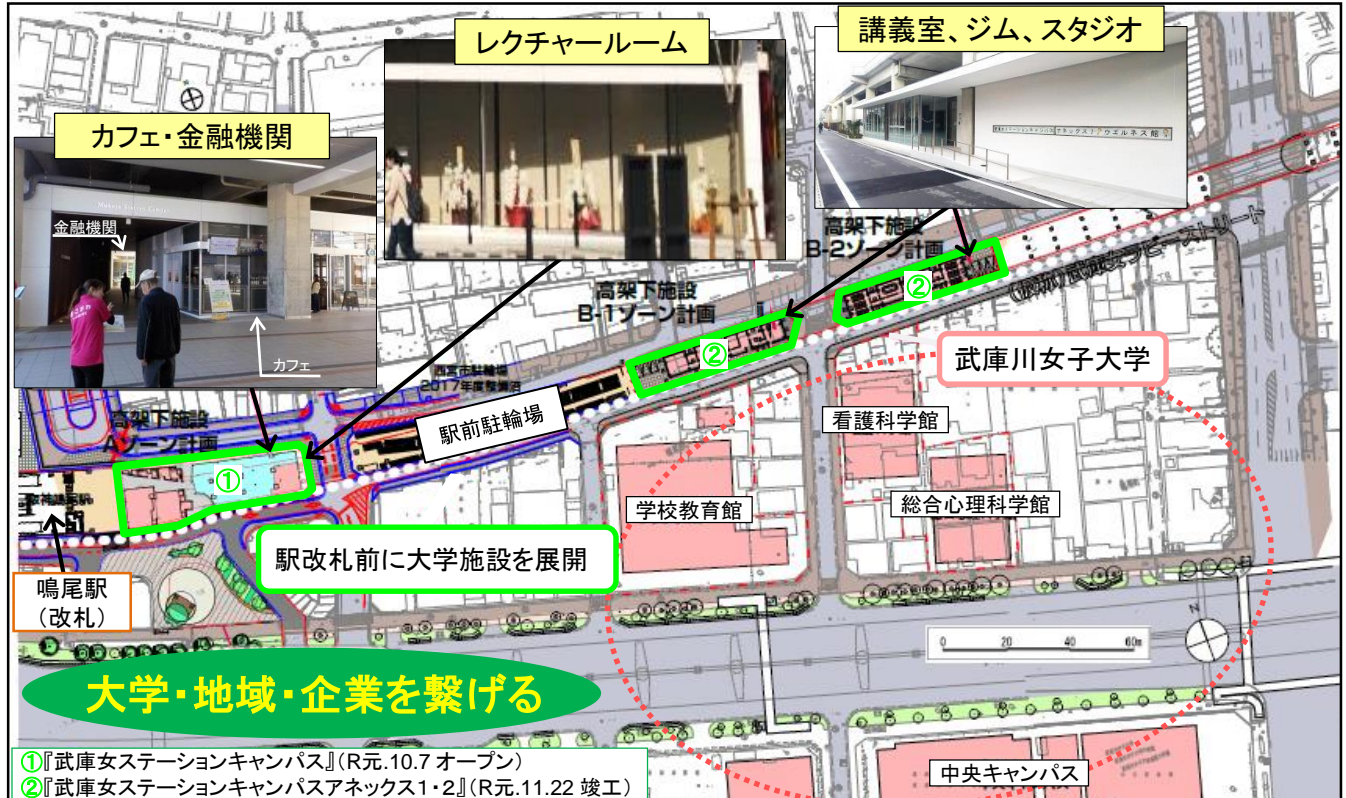
駅舎デザインの作成



【デザインコンセプト】
『鳴尾の沖を行き交う帆掛舟』

高架下利用

武庫女ステーションキャンパスを新たに設置



阪神電鉄本線（鳴尾駅付近）
航空写真

（整備前）



（整備後）



阪神電鉄本線（鳴尾駅付近）
駅部

（整備前）



（整備後）※「鳴尾」駅の駅名は令和元年10月1日に「鳴尾・武庫川女子大前」駅に変更



阪神電鉄本線（鳴尾駅付近）
交差道路：小曾根線

（整備前）



（整備後）



阪神電鉄本線（鳴尾駅付近）
八幡神社前

（整備前）



（整備後）



阪神電鉄本線（鳴尾駅付近）
関連側道

付属街路1号線（小松西町2丁目）



付属街路2号線（里中町2丁目）



付属街路3号線（上鳴尾町）



阪神電鉄本線（鳴尾駅付近）
高架下利用

（武庫女ステーションキャンパス）



（駐輪場）

